

調 査 研 究

C. M. I. の地域並びに職域の差異

上市厚生病院 越 山 健 二
市 村 潤

I 緒 言

私共は数年前から、農夫症の精神的側面について検討してきた。それには 主として農夫症、C. M. I. 及び P. F. T. の調査を使用した。たまたま昭和45年 7月より11月にわたって行なわれた山間地区406名、工場労働者121名、高岡周辺地区農民120名、合計 647名のC. M. I. の調査資料が集まったので、地域並びに職域においてかなり差異があるので二三の考察を加えて報告する。

C. M. I. : (conel medical Index)

肉体的、精神的不安動揺に対する広範な18項目195質問からなるものである。その項目を列挙すれば下記の如くである。

A	B	C	D	E	F	G	H	I
目	呼	心	消	筋	皮	神	泌	疲
耳	吸	臓	化	骨	フ	経	尿	勞
				格		系	器	勞
J	K	L	M	N	O	P	Q	R
疾	既	習	不	憂	不	過	怒	緊
関	往	慣	適	うつ	安	敏	り	張
病	症							
の								

II. 参考調査事項

過去数年間に亘って行なった C. M. I. による調査結果概要を参考までにのべる。

(1)

昭和41年6~8月に亘って過去10年間に世帯数、人口共に半減した上市周辺の僻地住民 113名につき、不安、悩みの調査と併せて、C. M. I. 調査を施行した。その結果は不安、悩みのあるもの93名(83%)を占めたが、領域分布は表の如く深町氏の標準値に比較して特に高い数値を示さなかった。

表 1

C. M. I. による健康調査
調査月日 (昭和41年) 8月
対 象 113名

調 査 結 果

領域	実数	%
I	57	50.4
II	35	31.0
III	18	15.9
IV	3	2.7

深町の C. M. I. 判断基準

領域	正 常 人		神 経 症	
	男 50名	女 50名	男 50名	女 50名
I	22(44%)	16(32%)	5(10%)	3(6%)
II	18(36%)	19(38%)	6(12%)	11(22%)
III	9(18%)	13(26%)	17(34%)	20(40%)
IV	1(2%)	2(4%)	22(44%)	16(32%)

(2)

昭和42年度前記僻地住民で農業に従事する農婦(男 6名を含む) 81名と工場労働者、116名のC. M. I. の比較を行った。即ち C. M. I. の項目のうち、血圧、心臓、疲労等身体的徴候をあらわすC. I. J項目と、くよくよ、いらいら、かっとなる、不幸感といった精神的徴候をあらわすM-R項目とに分け、農婦81名を農夫症なし、農夫症疑い農夫症の三群に分けてみると表の如くなる。

	上市工場労働者	農夫症	農夫症疑	農夫症
対 象 数	116	23	30	28
平均年齢	43.60	54.43	54.90	52.61
C. I. J	2.57	4.03	4.53	6.61
M - R	5.39	4.26	5.00	6.79

これによるとC. I. J. 項目、M~R項目とも、農夫症のないものから、農夫症にかけて一率に増加しており、農夫症に於て精神的負担や不安の大きいのがみられる。C. I. J. 項目は、いずれも農

民群に高く、M—R項目は、農夫症群にのみ高く
他は工場労働者より低い。

この事から農夫の場合は精神的負担や、不安を
精神的症状として外に訴えるよりも、身体的な症
状の形をとって訴えがちなように思われる。これ
は工場労働者において、C.I.J.が M—Rの得
点の二倍強であるのに、農婦群では、どの群も略
同じ値をとっている事からもうかがえる。

(3)

更に昭和43年、C.M.I.による農婦及び工場
労働者との比較を一步すすめ、P.F.T. (絵画欲
求不満テスト)を用いて、農婦の精神的適応機制
を検討した。その結果は、農民は、欲求不満を攻
撃的に表現せず、自責、忍耐というような形で処
理する傾向が強く、情緒的な負担、ストレスに対
して、M—R項目としてではなく、C I J項目と
なって、現われ易く、農夫症における精神的な負
担は、それが身体的な症候となるまで、外にあら
われにくいと考えられる。

III. 調査事項

a) CMIについて

昭和45年富山県農村医学会が発足し、高岡農協ビ
ル落成を機に学会会員による、一日健康教室が催
された。その際、高岡周辺の農民120名名のC.M
.I.の調査を行なった。この年私共は山間地区の
農民 406名、工場労働者121名のC.M.I.調査も
行ったので、その成績を比較すると表の如くなる。

	高岡地区農民	上市工場労働者	上市山村農民
対象数	120	121	406
調査時期	11月5日 ～7日	11月12日 ～13日	7月30日 ～8月31日
C I J	4.54	1.53	3.39
M—R	5.52	5.52	4.26

即ちC I J項目は高岡地区が最も高く、山間地区
農民、工場労働者の順となり、M—R項目では高
岡地区と工場労働者が高値を示し、山間地区農民
が低値を示した。

さきに述べた如く、私共過去の調査の結果によ
れば、農村と、工場労働者に於けるC.M.I.の
比較では、C.I.J項目では農村に高く、M—R
項目では工場労働者に高い事を指摘したが今回の
成績でも同様の結果が得られた。

然し、高岡地区周辺の住民は、C.I.J.,M—R
項目共に他の地区住民より高い値を示した事は注
目に値する。

即ち高岡地区周辺の農民は、精神的徴候、身体
的徴候共に山間地区や工場労働者より強いあら
われ方をしている。

ちなみに同時に行なった農夫症点数の調査でも 1
87名の農民(男67,女120名)のうち農夫症、農夫
症疑、農夫症なしの人数を示すと下記の如くであ
り

農夫症なし	農夫症疑	農夫症	計
42名 (22.4%)	107名 (57.3%)	38名 (20.3%)	187名

農夫症様症状を呈するものは 145名(77.6%)で
農夫症の平均点数は 4.25で可成り高い率を示し
た。これらの原因については即断は出来かねるが
C.I.J.項目については、可成りの過重労働が想
像され、M—Rの項目についても都市周辺の農民
の精神的欲求不満の適応機制が、他の地区と異
なるためのものではないかと考えられる。

この点については、更にP.F.T.などの調査を
施行し、検討する必要がある。変貌する都市周辺
の農村地区の保健問題は、山村地区同様重要だと
考える。

d) C.M.I.と農夫症との相関

私共は更に農夫症とCMIとの関係をピアソンの
相関係数 r を用いて計算してみた。

	r	a	b	対象
C	.431	.970	.303	高岡地区農民、120名 r : 相関係数 a, b 一次回帰式 r=a+bxの係数
I	.324	.737	.158	
J	.317	.507	.165	
M	.166	.838	.096	
N	.155	.048	.038	
O	.168	.715	.064	
P	.222	.542	.087	
Q	.216	.788	.199	
R	.147	.493	.054	

即ち農夫症得点とCMI.との相関は、C I J
つまり身体的徴候としての精神的不安との関連で
より強く、精神的徴候M—Rとの間ではより低い

事を示している。

Ⅳ むすび

昭和45年11月 5日～ 7日の三日間高岡農協ビル落成に際し、高岡地区周辺の農民の検診を行なったその際C.M.I.の調査を行なう機会を得たので従来私共が行って来たC.M.I.の調査結果と比較、

検討してみた。その結果高岡市周辺地区農民は、C.M.I.のうち、C I J項目M—R項目共に高価を示し、山村地区農民同様に保健対策を推進してゆく必要を痛感した。

この調査は富山県農村医学会員によって行なわれ富山県厚生連の厚意や御協力を戴いた。